

# スポーツ安全対策マニュアル

NPO法人新潟総合スポーツクラブOZ



## ◆ はじめに

スポーツというのはその特性から、常に怪我や事故と隣り合わせであり、それを避けて通るということは、スポーツそのものを否定することにもなりかねません。それよりも、スポーツ事故が起こった時に、被害を最小限にすることが重要な課題となり、それは普段の運営時より常に準備をしておくことが必要です。

### 「安全確保のための6つの指針」

- 1 選手にスポーツルールを守ることを教えよう（安全指導）。
- 2 絶対に選手に怪我をさせない活動計画の立案と実行。
- 3 危険を感じたらすぐに安全対策に立ち上がる。
- 4 最悪を想定し、活動の中止を恐れない。
- 5 地域の実績に応じた安全指導マニュアルを作成する。
- 6 保険に加入する。

### 「救助・救命に対処する指針」

- 1 人命救助など果たすべきことをまず果たす。
- 2 事故の事実関係を把握する。
- 3 医療機関搬送が必要な場合は速やかに対応する。

事前の安全マニュアル作成やそれに沿った救急処置等の訓練等を実施しておくことが重要になる。

## ◆項目

---

### 1. 事故を起こさない環境づくり ～安全意識～

- 1) 設備や用具の安全を確保する
- 2) 練習・試合時における選手の状態を把握しておく
- 3) 移動時の安全対策

### 2. 事故が起きたときの対応 ～危機管理体制～

- 1) 基本的な流れ
- 2) 連絡フロー

### 3. 遠征や合宿

- 1) 合宿届け
- 2) 保険証の携帯
- 3) 誓約書の記入
- 4) 親権者の理解
- 5) 保険への加入

## 1. 事故を起こさない環境づくり

### 1) 設備や用具の安全を確保する

設備や用具については普段から不備や故障などが無いかを点検して、練習前には確認をする。

### 2) サッカーゴール等は適切な位置に固定して、移動時は十分に注意する。

### 3) プレーヤと指導者は、スポーツの行動規範を遵守する。

### 4) 体調の悪い時は、車の運転は自粛する。運転中に気分などが悪くなったら即安全な場所に停車し、交代してもらるか休憩を取る。

### 5) 緊急救命法などの講義を受け常に対応できるようにしておく

## 2. 事故時の対応

### 1) 基本的な流れ

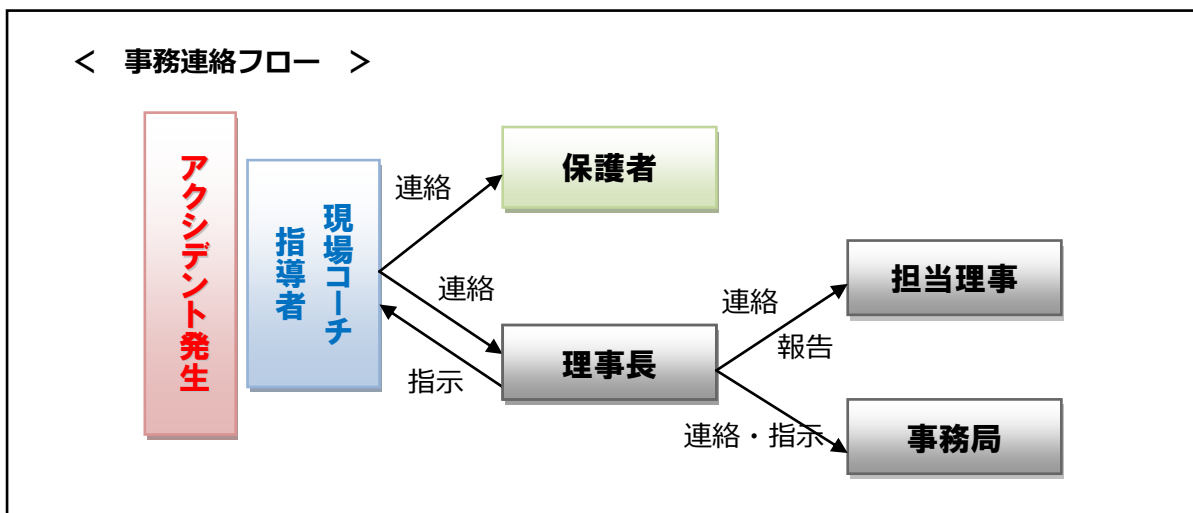
事故現場では指導者を中心として全員が協力し、救命救急措置と病院や救急車の連絡を行う。

### 2) 事故の説明と記録

いつ、どこで、何時に、どうして、という説明を書面として残す。

#### <事務連絡フロー>

- ①現場コーチ・指導者より保護者へ電話連絡
- ②現場コーチ・指導者より理事長へ電話連絡
- ③理事長より事務局及び担当理事へ電話連絡



### 3. 遠征や合宿の対応

- 1) 合宿届け（必要があれば合宿届けを提出する）
- 2) 保険証の携帯（遠征帯同者は保険証のコピーを携帯する）
- 3) 誓約書の記入（誓約書がある場合は記入する）
- 4) 親権者の理解（合宿・遠征の意義を保護者に説明をして理解を得る）
- 5) 保険への加入（スポーツ保険の加入をする）

### 4. 当安全対策マニュアルについて

このマニュアルはスタッフと会員に配布またはホームページに掲載を行うこととし、会員とスタッフは内容を理解した上で安全な活動の運営にともに協力をしていく。また、このマニュアルは必要があれば更新を行い、より内容のあるマニュアルを目指していくこととする。